

学びの広場

学力向上通信 職員室版
 茅田 涼太郎
 令和5年10月16日
 6号。1班 教材研究会

五中 学力向上研究テーマ
 「自分で課題を見つけ、表現し、解決する力（姿勢）の育成」
 研究会の目標
 「教員同士で実践を共有し、同じ視点・知識を土台に議論し、高め合う」

1班 教材研究会 10月11日（水）16：10～ @学E
 題名：「中京工業地帯の発展の要因と、産業の発展が地域や人々の生活に与える影響について考える」
 （中学2年 社会） 授業者：中島健太

Whyなぜ学ぶのか

子どもが身につけるべき資質・能力は？

この単元では、「中部地方の地場産業を盛んにする方策を提案しよう」という主題を設定した。これまで学習してきた多様な産業の多くは、地域の自然環境や交通・通信などの諸条件を生かした地場産業を基盤としている。地域ならではの産業である地場産業の振興を考えることで、産業と自然環境や地域間の結びつきなどのかかわりに注目して考察する。また、地場産業の振興策を多面的・多角的に考察し、他者とその方策について伝え合い、より良い方策について議論する力を養う。

What何を学ぶのか

子どもたちの学習対象は？

地場産業の振興について考える中で、中部地方の地域的特色や地域の課題について理解する。また、産業の発展や振興は自然環境や交通・通信などの地域間の結びつきとの関連があることを理解する。そして、課題解決のための方策について多面的・多角的に関連付けて考察し、表現する力を身に付けさせる。

Howどのように学ぶのか

子どもたちの学習過程は？

「産業を中核とした考察の仕方」を基にして中部地方を学習するために、「中部地方の地場産業を盛んにする方策を提案しよう」という主題を設定した。この主題について「地場産業を盛んにする意義」を考えるとところから始めることで、その必要性を理解させることで、生徒が意欲的に取り組めるようにしたい。また、地場産業に限らず、多様な社会的事象について地理的な見方・考え方を働かせられるように広がりをもたせたい。

本時の目標：中京工業地帯の発展の要因と、産業の発展が地域や人々の生活に与える影響について考える。

時間	学習内容
導入 5分	Q. 中京工業地帯はどのような工業地帯だっただろうか？
展開1 25分	Q.1 中京工業地帯ではなぜ自動車産業が発展したのだろうか？ ・自然条件や社会条件などの視点から考え、ワークシートにまとめていく。 （個人→グループ→全体共有）
展開2 15分	Q2. 産業の発展は、その地域や人々にどのような影響を与えるだろうか？ （個人→グループ→全体共有）
まとめ 5分	ワークシートで振り返りを行う。

中島 t が目指す生徒の姿

「実際の社会の中で多面的・多角的な視点を活かし判断・議論ができる生徒」

- ① 中部地方を東海地方、中央高地、北陸地方の3つの地域に分けて、気候などの自然的特徴や地場産業について理解することができる。
- ② 産業の振興と雇用や人口の流入などの地域経済の関連をとらえられる。
- ③ 産業を盛んにするための方策は、行政や人間の営みなど、多様な視点から考察することができることを知る。

論点

「目指す子どもの姿」を実現するために単元のデザインは適切か？十分か？

単元を貫く問い	学習内容	生徒の反応・気づき
中部地方の地場産業を盛んにする方策を提案	①地場産業の振興の必要性について考える。 ・地場産業とは何かを考える。 ・地場産業の振興策の必要性を考える。 ・中部地方の地場産業の背景にある自然環境について概観する。	・地場産業とは、その地域ならではの産業。 ・地場産業の振興は、伝統を守るだけでなく、地域の経済や雇用を生み出すために必要。 ・中部地方には、東北地方、中央高地、北陸地方があり、それぞれに特色ある自然環境がある。
	②中部地方に地場産業が多数存在する要因について考える。 ・東海地方、中央高地、北陸地方のいずれかについて、その地場産業と背景にある自然及び社会的条件についてまとめ、共有する。 ・中部地方に地場産業が多数存在する要因について考える。	・中部地方には、各地域の自然や歴史などの違いから、多数の地場産業が存在する
	③産業の発展が地域に与える影響について考える。 ・中京工業地帯で自動車産業が盛んになった理由について考える。 ・産業の発展が地域に与える影響について考える。	・中京工業地帯は、江戸時代からの繊維工業の技術を土台にして、臨海部の重化学工業とともに自動車産業が発展してきた。 ・産業の発展は、人口の流入やそれに伴う都市や交通・通信の発達につながる。
	④地場産業を盛んにする方策について考え、提案する。 ・地場産業を盛んにするために有効な方策を考える。 ・考察した方策をグループで提案し、ブラッシュアップする。	・補助金や道路の整備など政治による方策がある。 ・ブランド化やインフルエンサーを活用した宣伝、技術を用いた新商品の開発などが考えられる。

裏面に教材研究会参加者のコメントをのせています！

教材研究会のコメント 参加者：1班<岩井 t、平松 t、荒木 t、萬谷 t>
森本教頭、柳田 t、平尾 t、福田 t

**① 単元のデザインは「目指す子どもの姿」を実現するのに適切か？十分か？
適切でなければその打開策は？改善案は？**

- ・インプットの時間を短くして、考案したり、深める時間を削らないようにできないか？
- ・全単元でよくばらず、年間の中で深められる時間を決めておく。
- ・今回で言うと、4hの単元になっているが、6hぐらい欲しいのでは？
- ・第1時を深めるかな？「地場産業」って何やねん？→地元置き換えて
- ・第4時をやるために、第1～3時でどんなワークシートにして、第4時の活動を盛んにするか。

② 単元デザインを踏まえて、研究授業での注目するポイント。

- ・生徒が第4時での方策についての考えに繋げていくことを見すえて第3時について考えられているか、と答えを知って終わり(知識習得で終わり)ではなく、そこから自分ごとにして考えていくための問いかけに注目したいです。

③ 教材研究会の感想を書いてください。

- ・対話って楽しい!!! 他教科については知らないことばかりなので、様々な切り口で意見が出てくるので、知らないことを知るだけではなく、考え方・見方が新しく増えて面白いです。
- ・各地方の課題に対する方策を考えさせる活動は生徒が思考する動機づけになるなと感じました。次のステップとして、その方策によって、もし自分がその地方に住んでいたら、どんなメリットがあるかを加えて考えさせると面白くなるのかな、と考えました。
- ・討議内容が難しかった。単元のみではなく、分野・学年通しての目標・目指す子ども像があると話しやすかった。
- ・生活経験が乏しい子供たちをいかにして深く学ばせるか…。やはり活用できる知識量を増やしておくことが大前提になるのではないのでしょうか。4時間という限られた時間で知識をアクティブにするのは子供たちにとってはかなりハードルが高いような気がします。子どもたちが「社会の授業に参加するのが楽しい!」と思える授業になると良いですね。

「学習指導要領に基づく授業づくり」とは「○○○」である。どんな言葉が浮かびますか？

- ・子どもたちの可能性を広めるもの。
- ・小中を意識できる授業づくり
- ・持てる知識の活性化

中島先生のコメント

今回の教材研究会に際して最も頭を悩ませたのは、「限られた時間数のなかで、どれだけのことのできるのだろうか?」という点です。

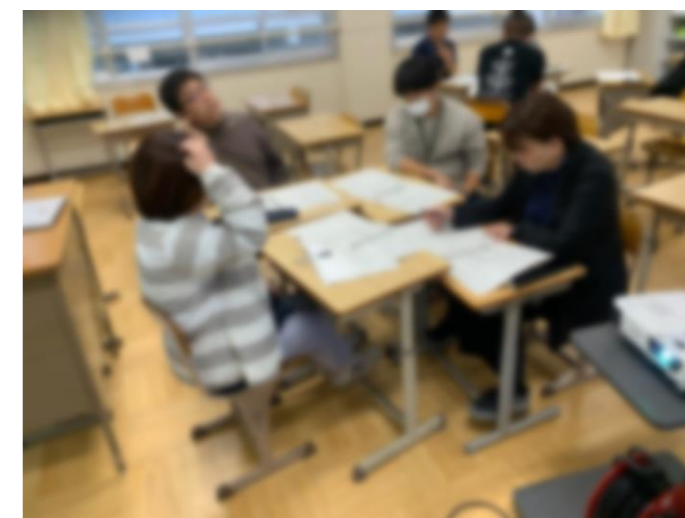
2年生ではチャレンジテストがあり、各単元に割くことができる時間数をしっかりとマネジメントする必要があります。今回の「中部地方」の単元も、余裕をもって行うならば5～6時間をとるべきところを、今年度の状況においては4時間を確保することがギリギリのラインだと考えています。そういった状況のなかでできる限り各単元で学びも深めたい、という少し欲張った指導案になってしまった部分があるということ、先生方も読み取られたのではないかなと思います。

そうした部分の改善案として、先生方のお話を聴かせていただき、以下の2点をぼんやりと構想しています。

1点目は、「本単元で学ばせたいこと」をより焦点化・明確化していくことです。時間数が限られているにもかかわらず、あれもこれもと考えていると各授業がより煩雑になっていくため、ゴールとなるこの部分をより焦点化・明確化していかなければならないと再認識しました。

2点目は、4時間目へのつながりをつくるための内容を、特に3時間目に入れることです。1～3時間目と4時間目のつながりの薄さは私自身悩んでいた部分なので、それを少しでもつくることのできるように考えたいと思います。以上のような点を中心に、授業の実施までに指導案を煮詰めていきたいと思います。

先生方とともに考えていただくなかで、より自分の視点も深まる貴重な時間になりました。お忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございました。



学力向上担当より

2回目の教材研究会は単元デザインについて話し合うことができました。1回目の教材研究会では課題についての議論が深まりを見せましたが、単元デザインにまで話題が及びませんでした。前回、平尾先生と反省点に挙げていたところを改善できたのは、1歩前進したように思います。また、社会科の学びのプロセスを中島先生が調べて、今回の指導案に取り入れて下さいました。中島先生の研究熱心な姿勢は、学力向上担当としても、非常に良い刺激になりました。周りの先生方にとっても必ず良い刺激になるものだと実感しています。

次に向けての学力向上担当の改善点として、単元デザインについての議論を深めるために、「この単元ではどんな資質・能力をつけようとしているのか」「今回の授業が学びのプロセスのどこに当たるのか」を明確に提示できればよかったと感じています。学習指導要領に基づいた議論にしていくように研究協議をコーディネートしていくことで、参加したすべての方にリターンのある研究会を一緒に作っていきたいと思います。

学力向上担当も学ぶことが多かった今回の教材研究会。中島先生、良い学びをありがとうございました！引き続き、研究授業もよろしくお願いします。 多田

教科らしい学びのプロセスを子供が獲得して、自分で回せるようにする

